

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300089
法人名	医療法人社団誠仁会
事業所名	グループホームめおといわ「はなみずき」 (ユニット名 I・II)
所在地	福岡市城南区松山2丁目8-3
自己評価作成日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和2年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○内・外部研修に率先して受け貰い、スタッフのスキルアップを行っております。
 ○地域の方々や、行政の方々にはしっかりと関わっていただけるように、運営推進会議の内容を考えていると共に、認知症サポート養成講座を行えるように、管理者がキャラバンメイトの資格を受講しています。
 ○残業0を目指し、ESをしっかり視野に入れて運営しており、残業データをとり、毎月減らして行っています。
 ○ミーティングを多く行い、入居者のQOLをしっかりと考えております。
 ○人材教育に力を入れ、離職率を減らすべく、精進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、閑静な住宅街の中に位置し、法人の診療所も敷地内にあるため医療体制も整っている。2階建ての建物の1階にデイサービスと小規模多機能事業所があり、グループホームは2階になっている。管理者が交代して2年目を迎えるなかで、職員は利用者のことを一番に考える支援に取り組んでいる。法人の基本理念とあわせて、事業所としての基本理念とユニット理念を職員と一緒に作りあげ、地域密着型の事業所としての役割を明文化し、支援方針のよりどころとしている。利用者へのより良いケアを行うことと、職員教育を同時進行で取り組んでいる。利用者一人ひとりの生活満足度をいかに高めていけるかを検討したり、ご家族との絆を深めていけるようなレクリエーション活動等の企画をしたり、職員が働きやすい職場環境の改善に努めたりしている。今後は地域との関わり方についても、事業所の役割を發揮していく意向があり、さらなる発展が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念とユニット理念を作り、ユニット理念はスタッフやご家族が見えやすい場所に掲示しています。	事業所独自の理念と、ユニットごとの理念を、管理者や職員と一緒に作りあげている。毎月のミーティングの時に、参加者で読み上げており、日頃の支援のよりどころとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を2か月に1回行ったり、行事を行う際は、地域の方々へ声掛け、参加して頂いている。	ご近所の方から野菜を届けてもらったり、夏祭りの手伝いに出たり、ボランティアサークルを招いて演芸等を披露してもらったりしており、交流の機会となっている。今後は認知症カフェなどを開催して予定である。	地域と日常的なかかわりはあるので、運営推進会議の参加者等との協力も得ながら準備を整え、事業所と地域のさらなる交流を深める取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が、キャラバンメイトやライフサポートワーカーを受講しており、現在どのように活かしていくかを検討中です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実態、取り組みを説明すると共に、サービスについて意見を貰う事はもちろん、地域や行政が困っている事など話してもらい、施設がどのように関わっていけるかを検討している。	併設する小規模多機能事業所と合同で、定期的開催している。社会福祉協議会や自治会長、民生委員、管理者やケアマネジャーが参加して、利用者状況等の報告や地域の課題等について意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でのみ行っている。	運営推進会議への参加をはじめ、事業所で開催するカンファレンスの件で不明なことを問合せた事例がある。市が主催する研修案内をもらい参加している。今後は、認知症サポーター養成講座の開催について、連携をとりながら実施していく意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には、施行しない方針です。やむを得ない場合は、ご家族に説明、同意を頂き、その後のデータを取り、月に一回カンファレンスを行い、継続の有無を検討している。	「行動制限廃止委員会」を設置している。利用者の心身状況により時間帯で拘束をしており、毎月話し合いの時間を持ち、解除に向けて検討している。職員は身体拘束の対象となる行為について理解しており、言葉による利用者の行動制限等についても、お互いに気を付けあえる関係があり支援に反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加してもらい、その内容を内部研修として伝達している。また、管理者・主任で職場環境を整えるよう努力し、スタッフのストレス軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、全体に周知を行っています。	後見人として弁護士がついている利用者があるため、事例を通して制度について学ぶ機会になっている。遠方にいる家族に権利擁護に関する制度があることを説明することもある。外部で行われる研修に参加した場合は、資料閲覧などで学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけ、管理者・ケアマネで契約を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見がでると、それに対しミーティングを行い、了承を得て掲示板に張り出している。	意見箱を設置している。意見がこれまでに入っていたことはなく、何かあれば直接、話をしてもらっている。各ユニットの職員男女比率が均等でないと意見をもった事があり、利用者の状況に配慮したものとなっていることを了承してもらっている。今後は家族会の開催を予定している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に1度の個人面談やミーティングを行い、意見を吸い上げ、反映しています。	管理者には、意見などを言いやすい関係にある。これまでに人員に関する意見を出したり、家族も一緒に楽しめるような企画の検討や提案をしたことがある。理念にも掲げていることから、利用者がいかに楽しく日々の生活を送れるかを話し合えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	先月より、アドバイザーを設置し、管理者と共に就業環境の整備を行っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、差別せず行っております。職場も、個々の意見を尊重したり、希望する研修に行ってもらおうなど社会参加・自己実現を意識しております。	職員の採用について特別な条件等は設けていない。職員個々の状況による休暇や有給休暇の取得等は、しやすい配慮がなされている。研修等は、勤務扱いとして参加しており、スキルアップの機会を確保している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内・外部研修を行っています。	市で開催している研修に出席した職員から、伝達研修をして学習内容の共有をしている。法人内で設置している教育委員会で毎月開催する勉強会でもテーマを取り上げ学習の機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ積極的に参加し、参加者が内部研修を行い、スタッフへ周知している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時に、同業者と交流が出来る。今後、ネットワークを作ってい良ければと考えてます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定期的にスタッフと管理者・主任で個人面談を行い、関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネを中心とし、日頃のコミュニケーションやサービス担当者会議を行い、関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と、管理者・ケアマネで話し合い、に一つを引き出し、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事をしてもらい、できない部分を補うような形で、一方的なケアにならないようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、サービス担当者会議や電話などで、コミュニケーションを行い、関係性が途切れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人に面会制限をかけず、また、家族との外出にも積極的に行うようにしている。	日々の会話などから、これまでの馴染みのある人や場所などについて情報を得ることがある。利用者の知人が訪ねて来ることがあり、楽しい時間となるように支援している。家族による外出をする際は、車いすや乗用車への移乗をしたり、直近の身体状況を報告しながら、外出計画を一緒に立てたりして支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良い関係性になるよう、職員が間に入るなど、配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬式に参加させて頂いたり、退去された方の郵便物が届いた際は、電話で連絡をとったりと、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の思いをくみ取り、少しでも希望を持てるような声掛け、同調、共感して頂けるよう心がけています。	管理者と職員は、日々の暮らしの中で、利用者との会話や表情の変化、家族から聞くなどして個々の思いや意向をくみ取っている。得た情報は、申し送りノートに記録して皆で共有し、よりよいケアにつなげるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族や事業所から今までのサービス内容やその他の生活歴や暮らし等生活全般の情報収集・把握に努めています。また、日頃から家族や利用者との会話から情報をとり支援に活かしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定で健康管理、傾聴などで心身の状態把握に努めています。そして経過記録や申し送りで情報の共有に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度カンファレンスにてモニタリング・評価を行い追加・削除・修正を行ない、ケアプランに落とし込んでいる。家族の意見も伺い、プランに反映させている。	利用者ごとに担当者がおり、介護計画作成時にはチーム全員で話し合い共有している。介護計画は、定期的に見直ししており、状況の変化に応じてその都度変更している。日頃のかかわりの中で、本人の思いや家族の希望も聞きながら、計画に反映させるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の生活や心身の状態を把握しながら記録して、申し送りやミーティング、カンファレンスで検討し介護プランの見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護プランに基づいて、サービスを提供している。また、情報共有をしっかりと行い、ケアの統一を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域行事を通じ、地域との交流を積極的に行っている。自治会長や民生委員とのつながりを密に行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療があり、早期発見・早期治療に努めている。	敷地内に系列の診療所があり24時間の対応ができ、希望すれば以前のかかりつけ医や総合病院の受診も可能である。他の病院への受診で家族同行の調整がかなわない時は、職員で同行支援を行い、結果を家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の介護の中で観察に努め、気づいたことを速やかに看護(診療所)に報告し、指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の関連施設であるので、日頃より連携は密である。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や各医療機関と連携し、安心して過ごして頂けるように努めている。	看取りを行っており、状況の変化に合わせて、本人家族に意思の確認を行いながら、チーム全体で方針を共有しつつ支援に取り組んでいる。家族が希望すれば簡易ベッドや食事の提供も可能である。職員には、看取りの研修参加や対応マニュアル等を作り、支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、救急箱に常設している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会より方法をおろし共有している。地域との訓練は、今年秋に実施予定。	災害ごとのマニュアルを作り、年2回昼夜想定避難訓練をしている。防災用品や備蓄品はリストを作り期限が近い食料等は勉強会で試食して在庫管理をしている。大きな家具は突っ張り棒で耐震対応をしたり、各居室の入口に避難時確認札を取り付けたりしている。区内の事業所と「防災助け合いマップ」を作成し有事の際の協力体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関係性が親しくなっても敬語で敬意をもって接することに努めている。	職員は常に利用者に対して、年長者としての敬意を払っている。トイレ介助時の見守りは、安全と羞恥心に配慮しつつ、尊厳と誇りを損ねない支援に努めている。法人の個人情報取扱に関する方針として、お便りの発行に代わり、毎月個別に写真を送付する対応となっている。個人記録の記入時は見守りをしながらも、他者に見えない配慮をし、鍵のかかる書棚に管理している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロックの研修・報告・共有を行い、自己決定を阻害しないように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に極力そのような介護を心がけています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のニーズに応じて、本人にして貰ったり、介助で行ったりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症が深い方が多く、一緒に準備はできないが、会話をスタッフと楽しみながら食べられている。身体状況に合わせ、お盆拭きなど手伝いをしてもらっている。	調理済みの食材が届くので、炊飯や盛り付け、個別の刻み対応などを事業所でしている。食後の片付けを利用者も一緒に行うことはある。食事中はゆったりとした音楽をかけている。月に一度「お料理レク」としてホットプレートでクレープを作る過程も利用者と一緒に楽しんでいる。個人の食の好みにも可能な限り対応しておりパン食も提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別性にて、食事形態を変えたり、栄養補助食品を提供したりしている。食事は、一部介助、全介助、自立と、3パターンで、行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。また、人によっては、歯科衛生士によって定期的に口腔ケアを行ってもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでできる人は、トイレ誘導を行っている。また、排泄チェック表を用いて、排泄パターンを分析し、パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。	一人一人の排泄チェック表を作り、様子を見ながら早めの声掛けをして、トイレに誘導している。介護度は上がっても早めの声掛け等により、トイレでの排泄を支援することで、パッド類の使用を減らせるようにしている。羞恥心に配慮し、さりげない声掛けをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し、個々に応じた排便コントロールを行うと共に、水分の促し、運動を誘導している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日にちと回数は、施設で決めているが、入浴時間は極力希望に沿っている。	毎日入浴の準備をしており、一人あたり週に2回入れるようにしている。お気に入りのシャンプーを使う人もいる。入浴を拒まれる場合には、日にちを変えるなど、無理強いすることがないようにしている。個別支援の事例として、職員手作りでバスタオルにゴム紐を加工したものを身に付けて入ってもらうなど、羞恥心を和らげる工夫もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のニーズに沿って休息、入眠をして頂いているが、生活のメリハリは付けてもらうようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師に、居宅管理で来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションを通して、歌を歌ったり、計算、軽い体操、折り紙を折ったりと気分転換を支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出支援を行い本人希望を把握しながら出かけられる様努めている。	事業所周辺の散歩のほか、イベントの中に盛り込んで、近くの神社や園芸公園などに出かける機会を作っている。家族と身内の集まりに出かける方もいる。外に出られない場合でもベランダに出て、外気に触れることで気分転換が図れるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブレクリエーション時の各自のお買い物にお金を所持したり使う事の支援を行っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員自体、お便りや電話を行っているが、入居者が連絡したいと言われる時は、家族の了承を得て電話をしてもらうよう援助します。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が出来る事をしてもらい、できない部分を補うような形で、一方的なケアにならないようにしている。	利用者が居心地よく生活できるように、玄関の照明は白色の明るめに、居間は落ち着いたオレンジ系の照明にしている。車椅子で自走しやすいよう動線を考えたテーブル配置にしている。ひな人形など季節ごとの飾りつけをして、四季を感じられる配慮がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の生活や心身の状態を把握しながら記録して、申し送りやミーティング、カンファレンスで検討し介護プランの見直しを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の目線がいく所などに、季節感が感じられるものを置いている	居室は個々の安全に配慮しながらも、居心地よく本人らしい部屋で過ごせるように支援している。それぞれがお気に入りの家具や飾りを置き暮らしている。仏壇やソファーなどを持ち込むこともできる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内で歩行訓練をしたり、車椅子自走してフロア内を動いたり、自由に過ごして頂いている。		